

## 五感を磨くこと

情報というのは知っていることが重要なではありません。研修でもときどき「そんなことは知っている」と言う人がいます。そういう人に限って、知っているだけで行動していかない人が多いものです。

研修を受講するにせよ、本を読むにせよ、知らないことを得るのではなく、自分がどう使えるかを知り、行動できているかという視点が重要です。

行動しない人は、頭だけで考えてばかりいるので五感がさびついでしまっています。周りの人から見ると、その人の表情

は喜んでいいのか、悲しんでいるのかさえ分からなくなっています。

体を使った五感を磨く実習をご紹介します。当社の研修では大好評な実習の一つです。

### (1) 本気のジャンケン実習

朝礼や研修で集まった人どうしで、2人のペアになりまします。ルールは簡単です。次のように説明します。「ジャンケンをして勝った人は本気で体を使って喜びを表現しましょう。負けた人も体を使って悔しさを表現しましょう」。こう言っ

てから、司会進行者は、近くの人とペアになって実演してみせ、イメージを伝えます。そして、次のように進行します。「それでは全員ペアになりましたか。本気のジャンケン、スタート」

一気にジャンケンが始まります。勝って本気でごぶしを上げて喜ぶ人がいます。負けて倒れこむ人がいます。1回だけで終わって次の実習に入ってもいいですし、そのまま勝ち抜きで本気のジャンケン大会にすることも可能です。

### (2) ハイタッチ実習

嬉しいときに体で喜びを表

現するハイタッチ実習があります。ボウリングでストライクを出したときに、仲間どうしでハイタッチをするイメージです。例えば、前述の本気のジャンケンで勝った人どうしでハイタッチをすると盛り上がるでしょう。やり方は、2人ペアになって、右手どうしでタッチ、左手どうしでタッチ、そして両手でタッチをするトリズ△感も出てきます。

朝礼や研修で暗い表情をしている人がいたら、このような実習をしましょう。私たちの仕事はサービス業です。お客様を明るく元気にする仕事です。その最前線に立つ人が、朝から暗い表情だと、お客様にもその暗さが伝染してしまいます。元気の出る実習をして場の空気を明るく元気にしましょう。まず、行動することです。すると、心も明るく元気になります。



本気のジャンケンでは体を使って喜びや悔しさを表現する



ハイタッチ実習を本気のジャンケン実習に組み合わせる



ふじさき・としろう

(株)パートナーズリンク代表取締役社長。大阪市立大学経済学部卒業後、大手流通チェーン企業に入社。準大手パチンコホール企業で総括SV、営業企画室長、経営計画部長を経て独立。人事コンサルタントとして社員教育・リスク回避型就業規則作成・クレド作成コンサルティング、評価制度の構築などを行っている。